

11月・12月の管理ポイント



株式会社 トモグリーンケミカル

第159号 2019年11月01日発行

当社Webサイトにて

バックナンバー掲載中

<http://www.tomo-green.com/>

冬期は土壌が乾燥しやすく、乾燥によるダメージを受けやすい時期ですが、低温期のベントグラスは、代謝や生理反応が低下しているためダメージが表に現れにくく見逃されがちです。春になってダメージが目立つようになってから対処しても回復は困難ですので、冬期も水管理に気を配り、土壌が乾燥し過ぎない様に注意しましょう。



ドライの予防と治療

ハイドレーターG

8月に販売開始した粒タイプの界面活性剤資材です。ドライスポットの予防と治療にご使用下さい。土壌の乾燥が気になる部分に直播出来ます。1mm程度の粒剤なので、粉が舞いにくく散布しやすい剤です。安全性が高いので安心してご使用頂けます。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：トライスポットの治療 20g/m²/週 予防10g/m²/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m²/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月



土壌水分環境を整えましょう

レボ (REVO)

冬場は降雨や灌水が減り土壌中の水分が少なくなりがちです。おまけに空気が乾燥しているため、土壌の乾燥が思っている以上に早く進んでしまいます。土壌が乾燥すると、土壌中にある撥水予備軍（濡れていると撥水しないが乾くと撥水が強くなる物質）が強い撥水を示すようになり、急激にドライが進んでしまいますので、冬場でも適度な土壌水分を保持し続けることが重要です。界面活性剤を処理することで適度な土壌水分を保持し続けやすくなります。特にレボは地際の水分を低めに、根圏の気相を十分にとりつつ、適度な水分を保持し続けることが出来ます。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



乾燥・過湿から
グリーンを守りましょう

プライマーセレクト

土壌全体に水を行き渡らせ、土壌中の余分な水の排出を促します。土壌水分のバラつきを改善し、ベントグラスが生育しやすい土壌水分状態を維持します。レボよりも土壌表層の水分を少し高めに保ちます。定期散布がお勧めです。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



タンクミックスにお勧め

グリーンシナジー

グリーンシナジーは根圏土壌の隅々まで水を届ける働きがあるので、肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に養分も根圏の隅々まで行き渡ります。与えた養分を無駄なくベントに届けるには、グリーンシナジーのご使用がお勧めです。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。

使用量：1-2ml/m²/月 散布水量：100ml-1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス



貯蔵糖類を貯えましょう

グリーンメカ

生育期の11月は糖類の消費が多くなります。十分施肥しても日照不足で光合成が十分に行えない場合、糖類の消費が追いつかなくなります。足りない消費分を補い、さらに冬の貯蔵分も十分蓄えるため、グリーンメカを処理して糖類を十分補給しましょう。貯蔵糖類を十分に蓄えた芝は、耐寒性耐凍性が向上し、来春の生育が良くなります。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²



自然な色調の着色剤

カラーメイト F-20

カラーメイトF-20は、従来品に比べ、季節感を重視した落ち着いた落ち着きのある自然な色調(ダークグリーン)に仕上がる着色剤です。物理性(固着性、速乾性、色持ち、色乗りetc)や安全性にも優れています。お求めやすい価格なので、フェアウェイなど広範囲でもご使用いただけます。

使用量：50~100倍 100~200ml/m²散布



芝生の耐乾性
耐寒性を高めましょう

リーフシールド

リーフシールドで茎葉部をコーティングすると、蒸散を抑制し、芝の乾燥を防ぐと共に葉面温度の低下を軽減出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

希釈倍率：200-400倍 散布水量：100~300ml/m²

冬期の水管理 ～土壌撥水軽減対策～

春夏秋は界面活性剤処理などで、土壌の撥水対策をとっている方が殆どだと思いますが、冬はどうでしょうか？

冬期は土壌が乾燥しやすく、撥水が強くなりやすい時期です(乾燥した状態が長期間続くと撥水が強くなる)

●空気が乾燥している、風が強い ●散水量を控えがち ●ダメージが表に現れ難く乾燥していることに気づきにくい

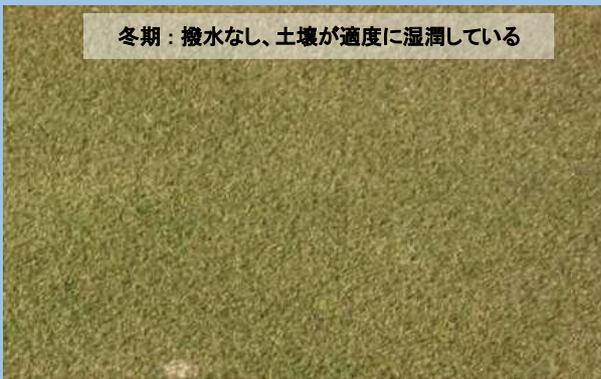
春夏秋と撥水対策を折角と続けても、冬やめてしまうと 冬の数ヶ月で撥水は強くなってしまいます
 冬期も撥水対策をとり続けることをお勧めします



冬期

冬期に撥水対策をとった区と、とらなかった区では、撥水状況がこんなに異なります

冬期に撥水対策(界面活性剤処理)をとり
 適度に湿潤した状態を保持した箇所



冬期：撥水なし、土壌が適度に湿潤している

冬期に土壌が乾燥した状態が長期間続き
 撥水が強くなった箇所



冬期：撥水が強い

撥水が1度でも強くなってしまうと、たっぷり散水しても直ぐには回復しません
 ドライスポット発生リスクも上がります

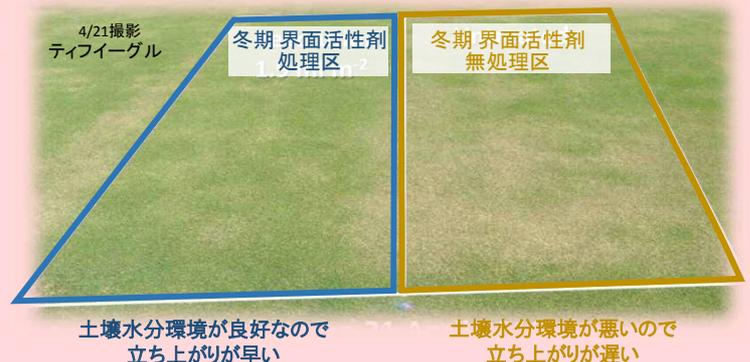


春先

冬期の撥水状況は春の芝生の立ち上がりにも影響を与えます

冬期界面活性剤処理区：レボを5-8月定期散布、12月に1回散布 冬期の撥水なし

冬期界面活性剤無処理区：レボを5-8月定期散布、9月以降は無処理 冬期の撥水あり



USGA TurfGrass and Environmental Research Program 2016 Research Summaries <http://archive.lib.msu.edu/tic/ressum/2016/2016.pdf>

冬期の土壌撥水状況は、その後のベントグラスの生育にも影響を与えます

冬期の土壌水分環境が
 良好：春先の立ち上がりが早い → 生育期に丈夫な根が育つ → ストレス過多な夏を無事乗り越えられる
 悪い：春先の立ち上がりが遅い → 生育期に十分生育出来ない → ストレス過多な夏を乗り越えることが難しい

冬期も撥水を予防し
 土壌水分環境を最適な状態に保ち続けましょう

